
家庭教師ヒットマンREBORN 仲間と共に

瀬島れん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家庭教師ヒットマンREBORN 仲間と共に

【Nコード】

N3531BA

【作者名】

瀬島れん

【あらすじ】

未来から帰ってきたツナ達。

やっと平和な日々に戻る・・・と思った矢先、「私たちのボスを助けて下さい!」「んなああああ!?!」一人の少女がボンゴレ十代目ファミリーの前に現れる!しかも、「え、茲名!?!」「武!?!」え、この人山本の知り合いなの!?!
原作とは全くストーリーが違うので、覚悟してご覧ください!

1・銀髪の少女(前書き)

全く文才がないのに、勢いで1話目を書いてしまった瀬島です！

呼んで下さったら嬉しいです。

ちょっと、最初が暗いです！

苦手な人はごめんなさいいいい！

1・銀髪の少女

冬の真夜中

月の光に照らされて、きらりと光る長い銀髪

それをなびかせているのは、中学生くらいの少女。

「クスクス

弱い、よわーい」

そして、その少女によって

何人もの男達が殺されていた。

「ふう・・・

残ったのは、貴方だけみたいですね」

血の海の中に倒れる何人もの男。

一人だけ呻き声を上げている男に、返り血まみれの少女が近づく。

「す、すまなかつた！」

命だけは、命だけは取らないでくれっ！」

他のファミリーの奴にも、もうお前を追わせたりしない！

だからお願いだ、俺だけでも助けてくれ、見逃してくれ、殺さないでくれ……………

4

男が必死になって命乞いをするのを、無表情で見ている少女。

だが、

「…………仲間が死んでいるのに、自分だけ助かるうなんて嫌な人ですね、あなた」

死んで下さい

グサッ

「うああああ！」

少女の服に血が付くが、それをさして気にもとめず……

少女は微笑んで言った、

”さようなら”

1・銀髪の少女（後書き）

どうだったでしょうか？

もしこんな駄文を気に入って下さる方がいたら
これからもよろしく願います！

2・誰かの声（前書き）

2話目です！

どいどい、いっ賢くだちら

2・誰かの声

冬の朝

はちみつ色の髪の毛の少年が学校に向かって道路を歩いていった。

「んー・・・」

いい天気だけど・・・寒いな」

そのはちみつ色の髪の毛の少年、沢田綱吉はサクサクと少し積もった雪を踏みしめながら学校への道を歩く。

「（この前まで未来にいたのが嘘みたいだ・・・）」

未来から帰ってきてきて少し経ち、冬になった。

帰ってきてからは、ツナが望んでいた普通で平和な毎日が過ぎている。

「平和だなあ・・・」

リボンと出会ってから、ささいな休息でも幸せで平和だと感じる。

「お前はもうすぐボンゴレ十代目になるんだ

平和な日々なんて無くなるからな、覚悟しとけよ？」

この前、リボンに言われたひと言が心に重くのしかかるが・・・

今はこの平和な日々を楽しもうじゃないか！

”へえ・・・”

あれが、沢田綱吉か・・・”

「誰だ・・・っ!？」

急に後ろで声があったような気がしてツナは勢いよく振り返る。

だが、後ろには誰もいない。

「・・・空耳かな？」

ツナはさして気にもせず、そのまま学校に向かった。

2・誰かの声（後書き）

どうだったでしょうか・・・？

誤字脱字などがあれば教えて下さい！

3 ・転校生（前書き）

何か、一気に字数が増えた気が・・・！

読み辛いかもデス・・・

3 ・ 転校生

「(さっきの声って本当に空耳だったのかな・・・)
でも、別に嫌な感じはしなかったし・・・大丈夫だよね」

途中から考えていることが口に出ているツナだが、歩いている廊下には誰もいないので聞かれる心配はない。

「分かんないことを悩んでいても面倒だし・・・いつか」

教室に着き、考えるのを放棄したツナは教室のドアを開ける。

ガラッ

「十代目、お早う御座います!」

「おっ、ツナおはよう!」

声を掛けてきたのは、自称右腕の獄寺隼人とツナの親友の山本武である。

「獄寺くん、山本、おはよう!」

いつもどおりのふんわりとした笑みを浮かべてツナも挨拶をした。

「なあ、ツナ

今日は転校生が来るらしいぜ」

「転校生?

今の時期に転校って珍しくない?」

普通は学年が変わると同時に来ることが多いと認識していたツナは首を傾げる。

「そうなんだよ！」

しかも、イタリアから来るらしいぜ」

どんな奴なんだろうな！

山本はいつものように、爽やかにニコニコしている。

「十代目のお命を狙う輩だったら、俺がしっかり果たします！」

獄寺はボムを持って、殺る気満々である。

イタリアから来るのか・・・

ツナは獄寺にボムを慌ててしまわせながらぼーっと考える。

「（リポーンが差し向けた刺客とかじゃなかったらいいかな）」

ガラッ

「おいみんな、席に座れー」

転校生が寒い廊下で可哀想だろー」

ちなみに、すごく綺麗な女の子だ。

先生がそう言うと、男子は急いで席に座り
ストーブのそばで暖まっていた女子は文句を言いながらゆっくりと
席に着いた。

「よし、みんな座ったな・・・
んじゃ、芹沢、入ってこーい」

ガラッ・・・

「失礼します」

入ってきたのは、銀髪に蒼い目の少女。

「さっそくだが、自己紹介をしてくれ」

「はい・・・」

少女は緊張しているのか、ふう……と息を吐く。

そして、

「……初めまして、芹沢茲名といたします／＼／」

ちよつと恥ずかしげな顔で自己紹介をした。

3・転校生（後書き）

どうだったでしょうか・・・？

誤字脱字があったりしたら、報告お願いします！

4 ゴジゴジゴジゴジゴジゴジ (前書き)

今回、ツナとか全然出てない・・・

4 ゃじじじじじ

「初めまして、芹沢茲名です／＼／」

茲名が挨拶をしてからの教室は血の海と化していた。

……男子の鼻血のせいだ。

（ ）（ ）（ ）か、可愛い……………／／（ ）（ ）（ ）

先生の言ったとおり、転校生はとても可愛かった。

女子も真っ赤になっている。

きめ細やかで、真っ白な肌
真っ直ぐで一切傷んでない綺麗な銀髪
宝石のように輝く蒼の目

ほっそりとした手足
整った顔立ち

うん、こんな子がいたら即鼻血出すよ
by作者

そんな中、他の人とは全然違う表情を見せている男がいた。

ガタッ

「・・・茲名ッ!？」

いつもは爽やかな笑みを絶やさないボンゴレ雨の守護者、山本である。

イスを蹴倒して立ち上がった彼の表情は驚きの一色だ。

急に立ち上がった山本の顔を見て、転校生の茲名は

「た、武!？」

驚いた表情を浮かべると共に、冷や汗をかいていた。

その顔を凝視しながら、山本が半分叫ぶように言う。

「お前、死んだんじゃないのか!？」

・・・はい？

山本の発言に、クラスの全員が固まった。

4 ぶっくろいんぐ(後書き)

ゆっくり投稿しますんで、
お願いしますー！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3531ba/>

家庭教師ヒットマンREBORN 仲間と共に

2012年1月13日23時49分発行